

山岡参考人ヒアリング資料

「改革ビジョン」
この時代の清風会のあり方

医療法人 清風会
法人事業部長 山岡 恭博

茨木病院としての危機感

1. 改革ビジョンの中で、茨木病院の医療は生き残っていけるか？
2. 医療法人 清風会の方向性は？
3. 何から手をつければ良いか？
4. 本館改築後の戦略は？

機構改革その1

平成17年5月 法人部の設立

- ① 障害者自立支援法への対応
- ② 福祉事業について議論を積み重ねる
- ③ 医療事業と福祉事業の連携について
議論を積み重ねる

方向性の検討

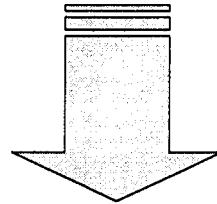
1. 福祉事業(地域生活支援センター、グループホーム、障害者自立支援法への対応)を撤退、医療事業(茨木病院)だけで生き残る
2. 福祉事業に取り組み、医療事業も短期入院・退院促進の地域連携型医療法人を目指す

どちらを選ぶか？

法人として2を選択

ならば

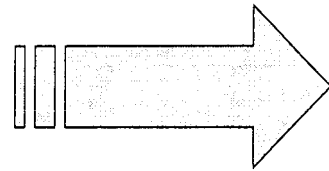
地域(診療所や総合病院、作業所、保健所、市役所等の保健福祉関係機関と当院のある三島地域の市民・関係団体)との連携をいかに図るか？



地域連携型のシステム作りを模索

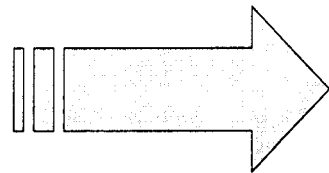
地域に信頼され、地域と連携する 医療法人を目指して

1. 福祉事業のシステム作り



法人事業部の設置

2. 医療のシステム作り



急性期治療病棟の開設
地域医療連携室を設置

福祉事業のシステム作り

法人事業部を設置し福祉事業を統括

- ① 障害者自立支援法の分析
- ② 福祉事業の方針検討
- ③ 人員配置
- ④ コ・メディカルの育成方針
- ⑤ 行政との交渉
- ⑥ 地域交流活動に関すること



議論の積み重ねと法人へのボトムアップ

障害者自立支援法への対応

平成18年 10月

地域生活支援センター
菜の花

移行

グループホーム 秋桜

新規事業

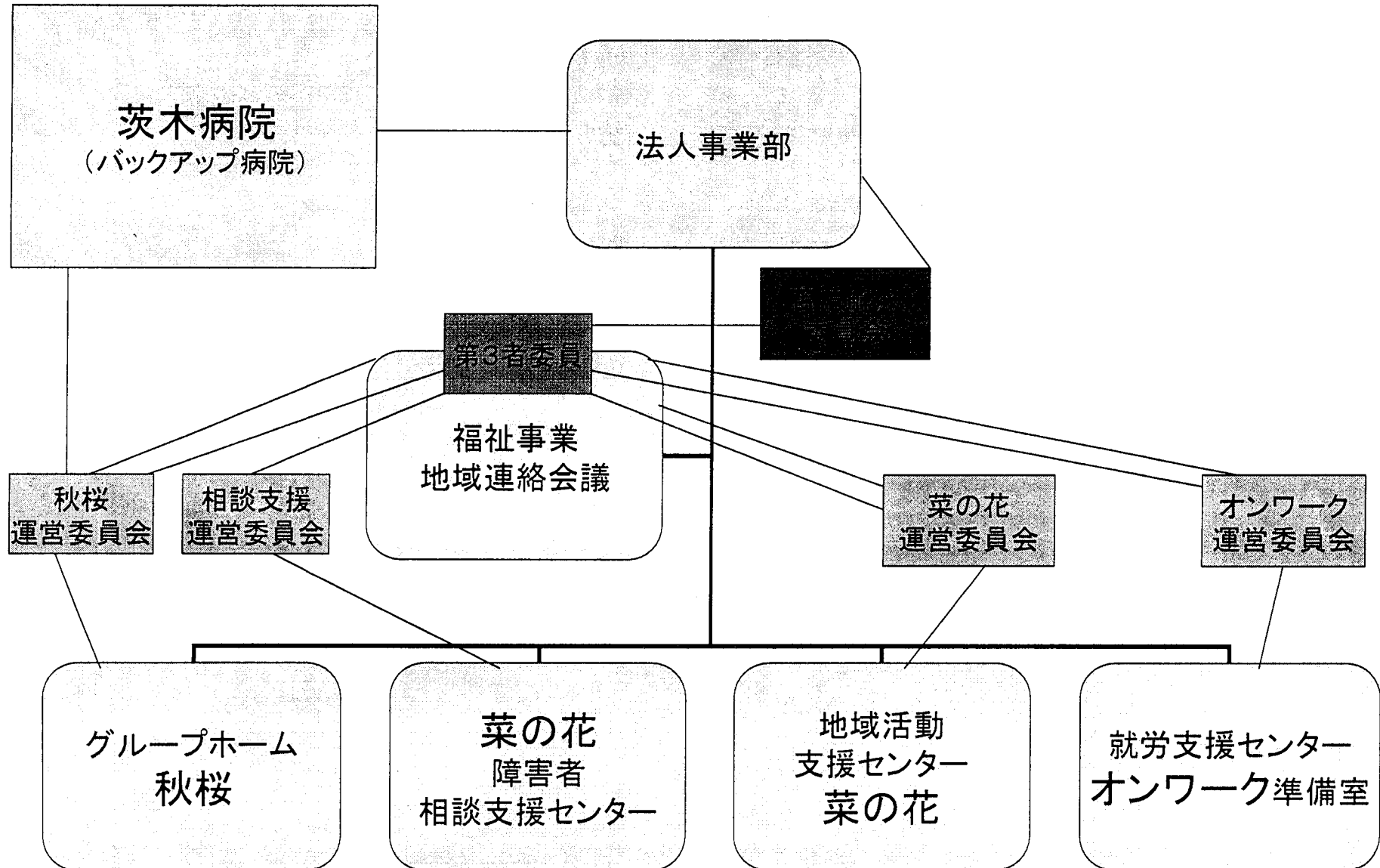
- ・地域活動支援センター I 型 菜の花
- ・菜の花障害者相談支援センター

(茨木市委託)

共同生活援助/共同生活介護
秋桜

就労支援センター
オンワーク 準備室

法人事業の運営組織図



福祉事業地域連絡会議

- 茨木市内地域との連携を図る
- 茨木市内の福祉施設との連携を図る
- 三島地域と当法人（医療事業を含めて）のコミュニケーションを図る

機構改革 その2

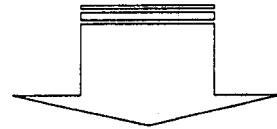
茨木病院のシステム作り 当院の特徴

長期入院者の占める割合が高い

- ① 長期入院者
 - ・1年以上 約70 %
 - ・5年以上 44 %
- ② 高齢者が多い
 - ・ 50歳以上が72 %
 - ・ 60歳以上が47 %

急性期治療病棟の開設準備

- ・退院を促進しないと受け入れが出来ない



- ・入院・退院を促進するシステムが必要

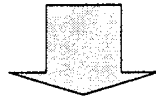
入退院のシステム作り

1. 地域医療連携室の創設

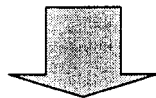
2. 退院への働きかけ

地域医療連携室の創設

当院の「体質改善」が必要



院内の入院システム作り



地域に向けて、当法人のスタンスを明確に

地域医療連携室の創設

1. 地域の中で信頼される

医療システムを作る

病・診連携、病・病連携の確立

2. 院内の意識改革

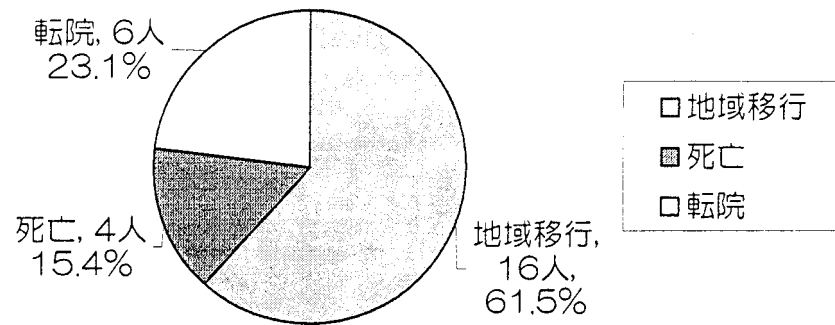
退院への働きかけ

1. 退院促進委員会の設立
 - ・法人全体で退院に取り組む
2. 大阪府・大阪市の退院促進支援事業の利用
 - ・院内茶話会の実施

茨木病院の地域移行率 平成19年1月～12月

	入院者数	退院者数	比率	地域移行	比率	死亡	比率	転院	比率
1年～5年未満	49	26	53.1%	16	61.5%	4	15.4%	6	23.1%
5年以上	134	21	15.7%	8	38.1%	5	23.8%	8	38.1%
合計	183	47	25.7%	24	51.1%	9	19.1%	14	29.8%

地域移行率（1年以上5年未満）



地域移行率（5年以上）

